

Yokohama

商工季報

2022春号

横浜商工会議所
The Yokohama Chamber of Commerce & Industry since 1880

YOKOHAMA商工季報

医療法人 横浜未来ヘルスケアシステム

横浜市戸塚区戸塚町
116
☎045-1866-10453

崩壊寸前の病院を再建し、 地域包括ヘルスケアシステムの要となる存在へ

このコロナ禍には様々な報道を目にしますが、医療現場の最前線に立つ医療従事者の方々には感謝の気持ちでいっぱいになります。今回お話を伺ったのは、そんな地域医療を支える、医療法人横浜未来ヘルスケアシステム理事長の横川秀男さん（65歳）です。横浜未来ヘルスケアシステムの中核となる「戸塚共立第1病院」は、1946（昭和21）年戸塚駅近くに開設された「戸塚共立病院」が前身で、



横川理事長。地元商店会の人々との地域交流も欠かさない

「その昔は、戸塚で病院といえば『戸塚共立病院』と言われるような地元で名の通った病院でした。しかし、私がこの病院に来た当時は、かなり厳しい状況になっていました」と横川さんは就任当初を振り返ります。もともとは昭和大学病院の心臓血管外科の医師だった横川さんは「経営が上手くいっていないが、伝統ある病院だから何とか立て直してほしい」と言われ、初めて戸塚の地に足を踏み入れました。「再開発の影響で今や昔の面影はあまりありませんが、その当時の駅前にはアメ横のような雰囲気のお店街に細い路地がいくつもあり、多くの人が出で賑わっていました。とにかく活

気が凄いい街だ」と思いました。当時は病院もまだ築年数が浅く、外観はとも立派に見えませんでした。しかし内情は、医師の高齢化と後継者不在。さらに、医療従事者不足で現場の医療体制は崩壊しかけていたといえます。「とても良い街なのに、病院がこれではいけない」と、横川さんは病院再建を決意し、1993（平成5）年に副院長に就任。それからというもの、週に4日は自ら当直勤務を行い、夜間の救急患者を積極的に受け入れるようになりました。また不足していた医療従事者も、今まで培ってきた繋がりを活かして集めました。「就任時は36歳と若



戸塚共立第1病院は横浜市2次救急拠点として救急患者も受け入れている

かったもので、とにかく必死でしたね」と当時を懐かしみます。一時は無理が祟り体を壊したこともあったという横川さんですが、皆の努力の結果、病院体制は充実。患者さんの評判も良くなり、救急隊や他病院からも多くの紹介患者さんが来る存在へと生まれ変わりました。学生時代にラグビーチームを再建することと一緒だと思います。結局はチーム力が大事です。『One for All, All for One』一人

は皆のために、皆は一人のために」この言葉を大切にしています」とラグビーから学んだ精神があったからこそ、病院再建が出来たといいます。2017（平成29）年には、戸塚区役所の跡地に『ONE FOR ALL 横浜』という、1Fの地域交流スペースに、産婦人科、透視診療、病児保育、有料老人ホームを擁する5階建ての医療介護複合施設を開設。現在は戸塚駅周辺を中心に都内や横須賀など病院5施設、クリニック8施設、介護施設7施設、その他、看護専門学校や関連施設も運営するなど、地域を包括する医療介護システムになりました。また、災害時医療支援チーム（TDR）や外国人看護師育成事業といった社会貢献活動に加え、女子ラグビーチーム『YOKOHAMA TKM』の設立、女子サッカーチーム『ニッパツ横浜FCシーガルズ』オフィシャルクラブトップパートナーになるなど、スポーツを通じた地域貢献活動も積極的に行っています。横川さんの元気のヒケツはラグビーで培ったチーム・ビルディング力と不屈の精神力、そして街を想う地域愛に他ならないのです。



YOKOHAMA TKMメンバー。同病院で働きながら活躍する選手も多い

支部発！イチオシ探訪50
会員さん訪問 「元気のヒケツを教えてください！」

毎号2社の会員企業に元気のヒケツを伺うこのコーナー。今回は、地域医療を担うだけでなく、社会貢献などにも力を入れている医療法人横浜未来ヘルスケアシステム（戸塚支部所属）の横川理事長。創業150年の老舗として、常にこだわりのお菓子作りを続けている株式会社シゲタ（南部支部所属）の重田社長のお二人にお話を伺いました。

取材・文 有限会社エムプロジェクト